

新たな府市協調による 安祥寺川・四宮川の治水安全度の早期向上

令和4年1月20日
京都府・京都市

1. 政策協定の内容

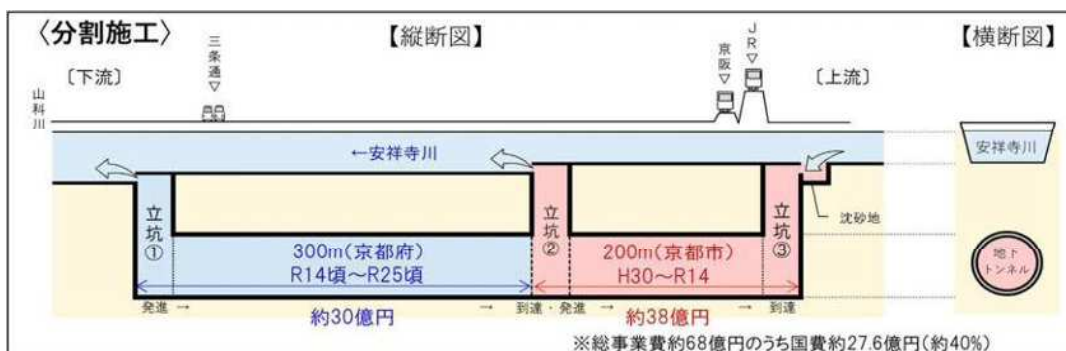
- 府市協調のもと、事業主体を京都府とし、国の支援制度（防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策）を最大限に活用して安祥寺川改修事業の推進
- 府市協調の新たなスキームとして、安祥寺川・四宮川整備推進室（仮称）を京都府京都土木事務所に設置（令和4年4月設置見込み）し、府市から各々職員を配置

2. 政策協定の効果

- 安祥寺川の改修完了時期を令和25年度頃から令和15年度頃に約10年前倒し
- 国の支援制度を最大限に活用するとともに、安祥寺川の河川改修を分割施工（約68億円）から一体施工（約55億円）とすることで総事業費を約13億円削減
- 京都市の持つ、都市基盤事業によって培った経験や基礎自治体として地域に精通する強みを安祥寺川と四宮川の改修に活用

【これまでの安祥寺川の河川改修の進め方】

流下能力が特に低くネックとなっている上流工区を京都市により施工。完了後に下流工区を京都府により施工。2工区の総事業費は約68億円、完成予定は令和25年度頃



【政策協定締結後の安祥寺川の河川改修の進め方】

上流工区と下流工区を一体として京都府が施工。立坑が1本不要となり、また地下トンネルの掘削を一度に実施することができることとなる。総事業費は約55億円、完成予定は令和15年度頃（約10年の前倒しが可能）



3. 平成 28 年 9 月合意について

平成 25 年台風第 18 号では、安祥寺川、四宮川で浸水被害が発生したことから、両河川で河川改修を進める必要があった。安祥寺川、四宮川はともに京都府管理河川であるが、平成 28 年当時の河川改修事業費が少なかったことから、両河川に同時に取り組むことは困難であった。

このため、安祥寺川については、ネックとなっている上流工区の改修を京都市が、四宮川の改修を京都府が実施することを平成 28 年 9 月に合意した。なお、下流工区は、上流工区完成後に京都府が実施する計画となっていた。

【H28 合意の内容】

▷京都市

安祥寺川（上流工区）

- ・対象・・・京阪下流から J R 上流までの延長約 200m
- ・内容・・・流れをバイパスする地下トンネルの整備
- ・工期・・・平成 30 年度から約 15 年間(令和 14 年度頃)

▷京都府

安祥寺川（下流工区）

- ・対象・・・三条通下流から京阪下流までの延長約 300m
- ・内容・・・流れをバイパスする地下トンネルの整備
- ・工期・・・上流工区完成後約 10 年間(令和 25 年度頃)

四宮川（整備計画区間）

- ・対象・・・山科川合流付近から起点までの延長約 2,000m
- ・内容・・・河道断面を拡大する河川改修
- ・工期・・・平成 29 年度から約 30 年間(令和 28 年度頃)

【政策協定】

- ▶協定の締結により、新たな府市協調のもと「安祥寺川・四宮川整備推進室(仮称)」が両河川の事業を実施

【位置図】

